

レッジョ・エミリアの教育は、
子どもは未熟、大人は成熟、子どもは知らない存在、
大人は知っている存在という子どもと大人をめぐる
非対称の関係を内側からつき崩して、
創造性の能力と学び生きる権利において、
子どもと大人は対等であることを宣言している。
本書『子どもたちの100の言葉』は、
子どもの可能性とその尊厳のために
心を砕く子どもたちと大人たちへの讃歌である。

佐藤学

学習院大学教授、東京大学名誉教授



展示の読解のための事典

一 理解する喜び

子どもがひとりで、または仲間とあるいは大人と一緒に学び、知り、理解する楽しみは、一番基本的で重要な感覚のひとつです。

これは非常に大切な感覚であり、その感覚をさらに磨くことが必要です。そうすれば、現実直面した際に、学び、知り、理解することは決して容易なことではなく、多大な努力も必要であることがわかって、その楽しみを持ち続けられるでしょう。

そしてこのような感覚が長続きすれば、楽しみは真の喜びへと姿を変えていくでしょう。

二 この共同生活

ここでは子どもも大人も一緒に遊び、仕事をし、話したり、考えたり、創作したりする喜びを見つけようとしています。事物と人間の関係や存在のあり方を求め、改善し、友情のうちに楽しむ方法を学ぼうと取り組んでいます。「子どもたちの100の言葉」展は、この共同生活の一部を物語る試みです。

四 自己充実感

従って展示のひとつの目的は子どもの発達の可能性やその過程と価値および子どもの知識や文化の真の再編成が必要であることを強調することです。相互の協力と交流を通じ、幾多の主観的、客観的に体験された経験の不断の混成の場としての文化が必要なのです。

このテーゼには、子どもの自己充実感の必要に断固として応えるという含蓄があります。自己充実感は子どもにとって(大人にとっても)、生物学的、文化的に必要なであり、それは生き生きとした幸福な状態なのです。

十 イメージの構成者

子どもをイメージの構成者と見なすような教育を考えられるでしょうか？われわれは可能だと思います。

子どもたちは(詩人、作家、音楽家、科学者のように)イメージの熱心な探究者であり、構成者です。

そして、イメージは、感覚、感情、関係、問題、一時的理論、可能なことのアイデア、筋の通った考えや一見不可能で一貫性のない思いつきなどを通して、ほかのイメージを構成するのに役立ちます。

アインシュタインが自分の仕事の仕方は、言葉や行動で表現することを極力先に延ばして、イメージ言語上に留まり得ることで成り立つ、と語るのは、まさにこうしたことなのです。研究の技術はすでに子どもたちの手中にあり、彼らは驚異の喜びに大変敏感です。

子どもたちは、この技術が彼らに生きる喜びを与え、特色のない、探検されていない世界に暮らす退屈さから救い出してくれることを早くから気づいているのです。

十一 知るために知る

われわれの役割は子どもたちがその持つて生まれた可能性、諸力、諸言語を使って世界と対話し、またしばしば序列理論の過剰と侵害や教育研究と実践の欠陥や過少評価により、子どもたちを貧弱にする文化がもたらすあらゆる障害を克服するように援助することです。

これが、子どもたちが遊んだり、見たり、聞いたり、行ったり、考えることがいかに知識に導き、またいかに知識がほかの知識を生み出すのか、彼らに理解させる条件です。それは単に意味の拡大や選択のみならず、幸福な状態、能力の拡大、自己の伸張を達成するような知識です。

経験によると、子どもたちはこのような条件を素早く見いだし、特有の優れた自主編成と再編成の選択能力で適合することができます。

十二 理性と想像力

また経験によると、子どもたちは大きな自由を必要としています。調べたり、試したり、間違ったり、訂正する自由。どこで誰と好奇心や知性や感情を注ぐのかを選択すること。手、視覚、聴覚、形、材料、音や色など無限の資源を評価すること。いかに理性、思考力、想像力が物事を絶えず関連づけていき、世界を揺り動かすかを子どもたちが理解する自由。

誰も子どもたちのために、時期やリズムや方策をあまり早尚に設定することなく、しかし、貴重な習得の時期は成り行きに任せておいてはならず、これを達成するには大人たちの広く積極的な共同参加が見いだされなければなりません。

十三 結合のサイクル

われわれは同様の自由と、いままで自らに課したことがないほどの専門性や好奇心、想像力を持って、子どもたちに知的機会を与えたり、彼らとともに構成していく必要があります。そして、子どもたちが次第に、作業上、解釈上より深い仮説を求めるようになるほど、意味深いものと評価したり、重要だと表明するようになる活動や思考の方向と選択とは、どのようなものかを見極める必要があります。

どんなに困難であっても、われわれと子どもたちの新しい行動はここから、彼らとわれわれの経験の質と能力を補強し、組織性を拡大するように一致して出発します。これはまさに次第に修正していくべき結合サイクルです。先に述べたようにわれわれのために、そして子どもたちのために。

ローリス・マラグッツィ